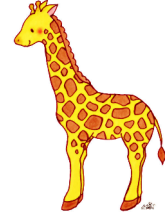


「ごめんね、みなみ」



— 学習すること（ねらい） —

◎身近な生き物の気持ちや立場に立って 優しく接しようとする態度を養う。

（参観のキーワード： 役割演技 道徳プリント わたしたちの道徳）

— ねらいとする道徳的価値は —

自然愛・動植物愛護

自然や動植物は、人間と同じようにかけがえのない生命を持つ存在である。この尊い生命がある自然や動植物に対して親しみをもち、優しい心で接し関わり方について考えることは、人間と自然や他の生き物との共生が求められている現在、とても大切なことである。本時は、生き物への接し方をふり返り、生き物の気持ちになって優しく接する大切さに視点を当てて指導していきます。

— この授業で使う資料について — （出典：「みんなのどうとく」 1年 学研）

九州の動物園の「みなみ」というきりんが、死んでしまった。その死因はお菓子の袋などのビニール袋を食べたことによる。人間の自分本位でのかかわりは、動物にとって迷惑なことを知らせ、動物の立場になって考え、責任ある態度や愛情をもって育てていこうとする優しい気持ちを育てていきます。

— 学習活動と主な発問 —

1. 身近な動植物について話し合う。

○家で飼っているペットや捕まえた生き物にどのように接していますか。

2. 資料「ごめんね、みなみ」を読み、聞いたり見たりしてみなみの気持ちについて話し合う。

○みなみは、どんなきりんでしたか。

○みなみの死を聞いて、子どもたちはどんな気持ちでしたか。

◎園長さんの話を聞いた後、子どもたちはどんなことを考えたでしょう。子どもたちの気持ちを考えながら、「ごめんね、みなみ」の後にことばを言いましょう。

3. 自分の生活を振り返り、身近な生き物に優しくできることについて発表する。

○家で飼っているペットや捕まえた生き物に優しくできることは、どんなことですか。

4. 教師の説話を聞く。



— 子どもたちのこんな姿を期待します —

みなみの死を考えることにより、身近な生き物の気持ちや立場に立って優しく接しようとする態度を培うことを期待します。